

第 1047 回原子力発電所の新規制基準適合性に係る審査会合
泊発電所 3 号炉 標準応答スペクトルを考慮した地震動評価に係る審議結果

2022 年 5 月 13 日

原子力規制委員会から以下の事項を指摘した。また、事業者から全ての指摘事項について了解し、今後、適切に対応していく旨、回答があった。

- ①標準応答スペクトルを考慮した地震動のうち、観測記録の位相を用いた模擬地震波については、模擬地震波の検討にあたっての考慮すべき観測記録の有無の説明が不明確であるため、以下のような整理を行い、考慮すべき観測記録の有無の判断も含め再整理を行うこと。
- ・北海道の西部の範囲まで拡大して収集した地震記録については、敷地において標準応答スペクトルを考慮する地震動の検討に用いる記録として適切なものがあるのか、分析、考察を行うこと。
例えば、地震記録の選定過程、敷地と各 KiK-net 観測点との地盤条件（構成地質も含む）の類似性、観測記録の地震波の継続時間に係る特徴（地震規模に対しての主要動の長短等の特徴を含む）等
 - ・観測記録に特異な位相が無いことについては、フーリエ位相スペクトルやフーリエ振幅スペクトル等も示し説明すること。
 - ・大深度地震観測記録の観測状況も含めて整理すること。
 - ・上記検討を行い、観測記録の位相を用いた模擬地震波の検討にあたって、考慮すべき観測記録の

有無の判断に係る説明を明確化した上で、検討に用いる観測記録として、2014年7月8日胆振地方の地震（M5.6）SBSH08 喜茂別の記録を選定することが適切なのか説明すること。

②泊発電所3号炉に係る次回審査会合では、本日のコメントに対しての検討方針を説明すること。